

# 水の憧れ

僕は今伊豆の海に来ている。

なぜこんなところにいるかと言うとおじいちゃんの別荘があるからだ。

おじいちゃんは暑いところや海が異様に好きである。

おじいちゃんが住む山中湖村は山梨県にあり、海がなくてとても寒いので、その反動だと思う。

でもそのおかげで僕は、今、伊豆の海をみながらぼーっとできている。

普段は触れることのできない空気、匂い、暑さ。少し居心地が悪いようで、新鮮な気もする。

海の波が押し寄せる音と、かすかに蝉の音も聞こえる。

8月下旬。

妹の小学校は夏休みが終わっているが、僕はまだ夏休みだ。

沖縄出身の母は海よりも、海から見える夕日や、地平線がとても好きだと言う。

そして、太陽が沈んでいくときの美しさ、切なさ、その後暗闇が訪れる静けさ、

母はそんな景色が無性に恋しくなると言う。

波は寄せては返す。海の水も少し冷たく感じた。

防波堤に続く階段に座っていると、お尻が焼けそうな位暑い。

僕は砂浜に出た。

砂浜の砂はやんわり熱く、歩いていると心地よく感じることもある。

少し目を横にやると、浜辺に溜まったゴミをシヨベルカーが片付けている。

先週まで台風などで、この辺も海も荒れていたらしい。

木片などの漂着物が多く散乱している。

ペットボトル、誰かの知らないサンダル、一斗缶など、

砂浜に似つかわしくないものばかり溢れていた。

きれいになった砂浜をたくさん家族が声を上げて楽しんでいる。

海はゴミも連れてくるが、母の思い出やおじいちゃんの憧れ、

僕の家族の幸せな時間も連れてきてくれる。

宿題が残っている僕は、正直、それほど楽しくない。

でも弟や妹たちが楽しそうに海に入っている姿を見ると、少しは良かったなと思う。

中学校3年の夏、いつまで家族旅行ができるかはわからないが、

この伊豆の海は嫌いではない。

また来年、今度は母の好きな夕日を僕も綺麗と感じることができたらろう。

僕も少しは成長していると思う。

おじいちゃんのおこがれは将来、僕の憧れになるかもしれない。



駿台甲府中学校 三年

高村 知徳

絵 おおざわ あい